

## 編集後記

毎年のことですが、インフルエンザの流行シーズンとなりました。高齢者の死亡例や小児のインフルエンザ脳症も報告されています。私の勤務地である千葉県では今年第2週（1月7日～13日）で定点あたりの報告数は41.33となり、警報基準値（定点あたり30）を超えました（全国レベルでは38.54）。昨年の千葉県の状況をみますと、1月24日に「インフルエンザ警報」が発令され、第11週（3月12日～18日）に終息基準値（10）を下回っています。今年も2月半ばを過ぎる頃には落ち着いてくると思いますが、しばらくはインフルエンザ治療に振り回されそうです。

今月の特集は「クリニックで診る小児膠原病・炎症性疾患」です。小児膠原病は頻度は高くない疾患ですが、多い主訴の一つに発熱があるため、繰り返す発熱の診察において見落としはならない大切な鑑別疾患に膠原病が含まれます。クリニックにおいても膠原病や自己炎症性疾患の初期診療に携わる機会は決してまれではなく、関節破壊が進行する若年性特発性関節炎への早期からの治療介入、またマクロファージ活性化症候群のような致死的な合併症、あるいは劇症型の若年性皮膚筋炎など、専門の医療機関に速やかに紹介しなくてはならない重症なケースに適切に対応することが求められます。本特集には、クリニックにおける小児膠原病・炎症性疾患に

対する初期診療の要点がよくまとめられており、ご活用ください。

綜説欄の2つの論文ですが、1編は、水痘ワクチンが定期接種化されたことによる水痘患者の疫学変化と臨床像についてであり、ワクチン接種率の向上による効果と水痘患者の減少に伴ったナチュラルブースター効果の減弱など今後の課題についてわかりやすく述べられています。もう1編は、脳性麻痺への再生医療の実用化に向けた最新の取り組みについて概説されており、将来の医療への期待が高まる論文です。是非ご一読ください。

診療欄で取り上げられている「子どもへの体罰・暴言」の問題は、社会的に注目されている重要な課題です。小児科医に大変ストレスフルなテーマですが、親を孤立させない多職種、多機関の連携によるサポートの必要性を、著者は指摘しています。

1月号から新連載の「小児科臨床教育の実践」は、専門研修のあり方が議論されているなかで、卒前教育から小児科臨床研修までを考える意欲的な企画です。目で見える小児科欄、症例欄には、貴重な経験がまとめられています。

本号が出版される頃には、インフルエンザの流行が下火になっていることを心から願っています。

（河野 陽一）

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC順）

## 小児科

第60巻 第3号 3月号

2019年3月1日発行（毎月1回1日発行）

定価（本体2,700円＋税）

年間購読料金

定価（本体42,100円＋税）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

Fax 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。